

2023年4月5日
 南海電気鉄道株式会社

地域活性化を目指し、就労支援施設利用者による 駅係員終日不在駅等での授産品販売と駅支援業務を開始します

南海電気鉄道株式会社（社長：岡嶋 信行、以下「南海電鉄」）は、堺市内の複数の就労支援事業所、及び社会福祉法人聖徳園が運営する河内長野市内の就労継続支援 B 型事業所ワークメイト^{しょうとくえん}聖徳園（理事長：三上 美知恵、以下「聖徳園」）との協業で、駅係員終日不在駅等のスペースを活用した、授産品の販売、駅支援業務を開始します。

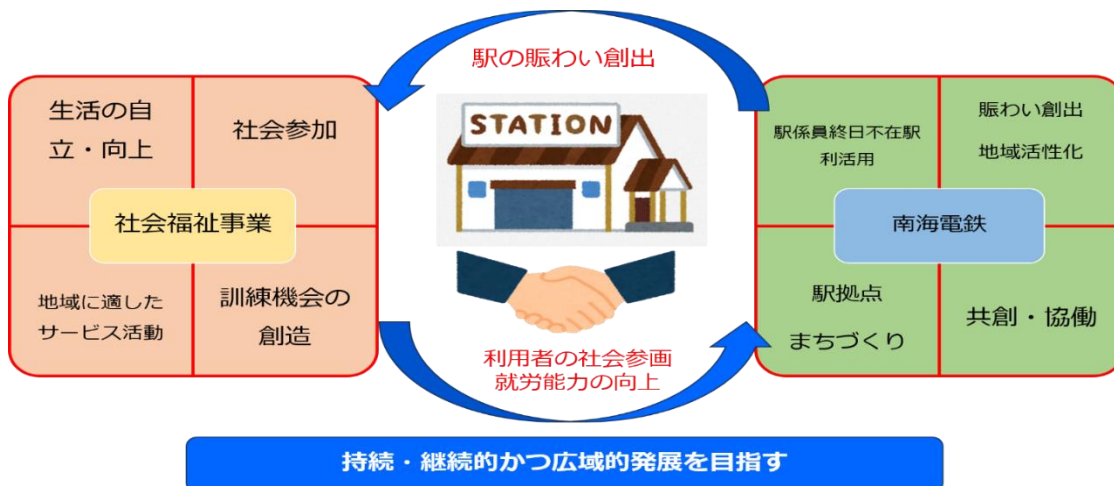
本取組みは、就労支援施設利用者により、駅を利用するお客さまへの挨拶やお声掛け、駅付近の案内、簡易清掃等の駅支援業務を行っていただくとともに、就労支援事業所に無償で駅のスペースを貸し出し、授産品を販売するものです。

4月13日（木）には、高野線我孫子前駅（10:00～11:00、15:30～18:30 頃：雨天中止）および南海線七道駅（14:00～15:00 頃）での実施を皮切りとして、以降、各就労支援事業所と調整のうえ順次実施駅を拡大します。

1. 目的

本取組みは、駅支援業務を行うことによる「駅の賑わい創出」と、就労支援施設利用者が授産品販売を行うことによる「就労支援施設利用者の社会参画と就労能力の向上」を目的としています。

（イメージ図）



2. 背景

南海電鉄では、中期経営計画「共創140計画」の主な事業戦略の一つに「選ばれる沿線づくり」を掲げ、地域の社会課題解決を通して地域活性化を図る「地域共創型まちづくり」を進めています。その取組みの一つとして、駅係員終日不在駅の賑わい創出を通じて「沿線エリアの活性化」を目指し、駅係員終日不在駅と駅係員時間帯不在駅を、「駅周辺の施設機能」「交通結節性」「地域交流性」「歴史文化性」、及び「まちの活性化」の5つの視点で調査し、自治体や沿線事業者等の様々なステークホルダーと共創した施策を模索して参りました。

その調査結果に基づき、2021年の秋から駅周辺店舗等のご協力により、一部の駅係員終日不在駅において、駅支援業務の実施を条件とした物販の「実証実験」を開始し、駅を利用されるお客さまへの挨拶やお声掛け及び案内業務を行っていただきながら、「賑わい創出」に関する効果検証を進めて参りました。

一方、就労支援施設では、授産品を生産、作成、販売することを通して、利用者の就労能力の向上とコミュニケーション能力を高めることを目的に、様々なイベント等において利用者が地域住民と触れ合える機会や授産活動についての理解を深めてもらうための広報活動に取り組んでこられました。

今回の取組みでは、南海電鉄が目指す「駅係員終日不在駅の賑わい創出」と就労支援施設が目指す「地域住民と触れ合う機会を増やし利用者の就労能力を向上させる」という理念が合致し、実施する運びとなりました。

3. 実施エリアの拡大

4月4日(火)の時点で、堺市内および河内長野市内の16の就労支援施設から、授産品販売の希望を受けており、準備が整い次第、順次実施します。

南海電鉄ではこの取組みを推進し、沿線各エリアでの実施拡大を目指します。

以上

南海電鉄は、SDGs への取組みを強化しており、関連するニュースリリースに「SDGs の目標アイコン」を明示しています。今回ご案内の取組みは、8番、10番、11番、17番に繋がるものです。

